

- 市民と市長との意見交換会の内容要旨  
 令和元年8月8日 木太コミュニティセンター  
 テーマ1 地域共生社会の実現に向けて

| No | 御意見等  | 回答  |
|----|---|---|
| 1  | <p>私の住むマンションでは、マンション住民の自治会加入にあたっては、マンション1棟ごとが加入の条件となっている。地域の人たちとの交流を考えると、地域にある自治会に個人で加入したいのだが。</p>  | <p>マンション住民の自治会加入に当たっては、加入率アップのため、棟ごとではない個人での加入を勧めている。</p> <p>しかしながら、自治会は任意団体であり、任意加入である。</p> <p>新しくマンションができた場合を始め、マンション単位で自治会をつくっていくのが、単位自治会としては一番簡単であるため、今発言にあったような状況にあるのではないか。</p> <p>また、マンションには管理組合があり、地元の自治会に加入するとなると、組合費と自治会費の二重の負担が生じるため、加入が難しい状況となる。</p> <p>今後の在り方について検討してまいりたい。</p> |
| 2  | <p>共働き世帯が増え、PTAの役員の成り手が少ない状況である。</p> <p>子ども会の役員についても同様で、子ども会への加入率が非常に低かったので、6年前に組織を大きくやり直した。</p> <p>自治会単位であったエリアを取っ払って、町名ごとの区分とし、PTAと一緒に組織とした。</p> <p>当初は自治会の反発が大きかったが、なんとか6年目を迎え、軌道に乗ってきた反面、自治会と子ども会とのつながりがないため、地域との交流がないという問題が出てきた。</p> | <p>子ども会と自治会への加入率が低いことは悩ましい問題である。</p> <p>現在、「自治会の在り方等プロジェクトチーム」を立ち上げており、なんとか結論を出していきたいと考えている。</p>  |

テーマ2 コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくりを目指して

| No | 御意見等  | 回答   |
|----|---|--|
| 1  | <p>電車やバスの公共交通機関を利用したことがない子どもが多いが、実際に乗車すると非常に喜ぶ。</p> <p>電車に乗って行きたいなと思える目的地があればいいと感じる。</p> <p>また、循環バスが数本市内を走っているが、非常に便利なので、他の場所でも走らせてほしい。</p> | <p>多くの方が公共交通機関を利用して訪れたいと思える、魅力ある場所をつくっていききたい。</p> <p>また、循環バスの区域は広げることができるよう、交通事業者に呼び掛けていきたい。</p>   |
| 2  | <p>新駅の整備が進められているが、本町交差点のように線路の高架化が必要なところはどうか。</p>   | <p>連続立体交差事業については、現在中止しており、関係者で代替案を検討中である。</p> <p>新駅整備は結節拠点を作るのが目的であり、バス等の乗り入れにより、フィーダー（注）化を図り、来る人が増え、移動が便利になり、公共交通機関の空白地域への利便性を高めることにより、将来的に元気な高齢者を増やすことにも繋がると考えている。</p> <p>注 フィーダ（feeder）とは、河川の支流という語源から、交通機関の支線のことを指す。幹線交通に交通を集中したり、幹線交通から交通を分散したりする役割を持つ。鉄道の場合には、バスやタクシー等の端末交通がこの役割を担う。</p> |

| No | 御意見等  | 回答   |
|----|---|--|
| 3  | <p>特定の一企業のために、公共交通に関する施策が多く行われている感があるのだが。</p> | <p>高松市に乗り入れる公共交通機関としては、JR四国、ことでん、大川バス、コミュニティバスなどがあり、公共交通の利便性を高める施策として、一企業のためではなく、公共交通全体として充実させることをねらいとして施策を進めていることについて御理解いただきたい。</p> |

テーマ1、テーマ2以外で

| No | 御意見等   | 回答   |
|----|--|--|
| 1  | <p>八栗の山の上から眺めた瀬戸内海の景色など、高松には魅力的な景色が多々ある。</p> <p>そのようなものをもっと若者に周知して、進学等で県外へ転出していく人たちが、将来Uターンしてくれるような若者を増やしてほしい。</p> | <p>ニューヨークタイムズが選ぶ「今年行くべき52か所」のうち、日本で唯一、瀬戸内の島々が第7位に選ばれた。</p> <p>このように世界的にも注目されている景色は、ふるさと教育として是非子どもたちに伝えていきたい。</p> <p>地元のいい所を知ることはUターン率の向上にもつながり、ひいては移住・定住の促進にもつながると信じている。</p> |

| No | 御意見等   | 回答   |
|----|--|--|
| 2  | <p>少子高齢化の一番の解決策は子どもが増えることだと考える。</p> <p>子どもを産み育てやすい社会にするための実効性のある施策など教えてほしい。</p>                    | <p>本市でも、同時在園の場合の第二子及び第三子以降の保育料無償化（本年10月から国の施策で3歳児以上の幼児教育・保育の無償化が開始したため、0～2歳での同時在園第二子及び第三子以降の無償化に移行）や、小学生の医療費無償化などをすすめてきて、来年度からは医療費無償化の対象を中学生にまで拡大する予定である。</p> <p>基本的には、国が小学生まで医療費は無償化するというような基盤をつくった上で、地域が工夫する形ができれば、国民は安心して子どもを生み育てることができると考えている。</p> |
| 3  | <p>保育施設の拡充や幼児教育・保育料無償化など、乳幼児の保育に力を注いでいる反面、親の子育て経験が浅くなる分、経験を後世に伝える力が弱くなっていて、親育（おやいく）が大事だと感じている。</p> | <p>ワークライフバランスが叫ばれているが、ライフに重点を置いた考え方も大切だと実感している。</p> <p>就業だけに重点を置くのではなく、低年齢児は家庭で保育できるような制度を作ることも大事だが、基盤は国で作るべきだと考えている。</p> <p>地方でできることは限られるが、親育という観点は高松市の施策にも盛り込んでいきたい。</p>   |
| 4  | <p>働くお母さんが増えているが、家でゆっくり子どもと向き合える時間を作るためには、最低賃金アップ、賃金アップが不可欠だと思う。特に中小企業の賃金が上がるようになってほしい。</p>        | <p>最低賃金は国が定めていることであるが、本来地域での格差をつけるべきではないと考えている。発言の機会があれば、声を上げていきたい。</p>  |